

第208号

令和6年11月1日発行

発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会

発行人 積田 優

編集人 広報委員会

(委員長 矢嶋博和)

事務局

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7(建産連会館内)
http://www.saidenkyo.jp/ E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

TEL 048(864)0385

編集 日本工業経済新聞社(埼玉建設新聞)

さいのかがやき
彩の耀

一般社団法人 埼玉県電業協会

耀け埼玉埼玉電協!

～2030年に向けて持続可能な開発目標～

令和6年度安全大会
「安全が全て」再認識

7月3日、2024年度の安全大会を埼玉建産連研修センターで開催しました。会員企業代表者およそ60人が集まり、労働災害の撲滅へ決意を新たにしました。また、優秀安全管理者5人が表彰されました。

冒頭に積田会長は「働く環境の安全と全ての働く人の健康確保が大原則です。建設現場で事故を防ぐ



優秀安全管理者受賞者一覧(敬称略)	
八洲電業社	笹本 卓
内田電気商会	佐藤 克彦
市之瀬電設	犬竹 克行
那須電機工業	河井 隆行
工 一	鳥羽 修次

ためには、とにかく現場に関わる全ての企業、全ての人が常に毎日、そして作業を行う度に『安全が全てだ』という気持ちを持ち続ける他ありません」と強調。この大会を機に改めて安全第一と無事故無災害を誓おうと呼び掛けました。

続いて、埼玉労働局から労働基準部健康安全課の川又裕子課長が訓示を、建設経営サービス提携講師の田部良夫氏が安全講話を行いました。

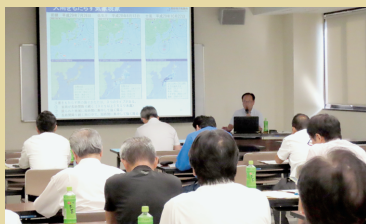
スローガン「危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険な芽 みんなで築く職場の安全」を、事故防止対策委員会の山本和利委員長が読み上げ、参加者は山本委員長に続いて復唱し、安全への意識を高めました。

県と気象庁職員が講演
令和6年度災害復旧対策講習会

9月10日、埼玉建産連研修センターで令和6年度の災害復旧対策講習会を開催しました。当日は50人が参加し、県災害対策課や気象庁から職員を招いて、埼玉県の災害対策や気象情報の活用などの知識を深めました。

当協会は2005年9月に埼玉県知事との間で災害時における電気設備等の応急対策業務に関する協定を締結後、関係21カ所と細目協定を結び、災害実働マニュアルに沿って有事の際の電気設備復旧体制づくりに取り組んでいます。

講習は、第1部として県災害対策課の米山沙理主幹が、埼玉県の災害対策について講演。第2部は、気象庁熊谷地方気象台の入福敏行気象情報官が、異常気象と気象情報の活用と南海トラフ地震について講演しました。その中で、気象情報を利用して身を守るため「段階的に発表される防災気象情報全体を活用することが重要」とし、天気予報における降水



気象情報の活用を説明

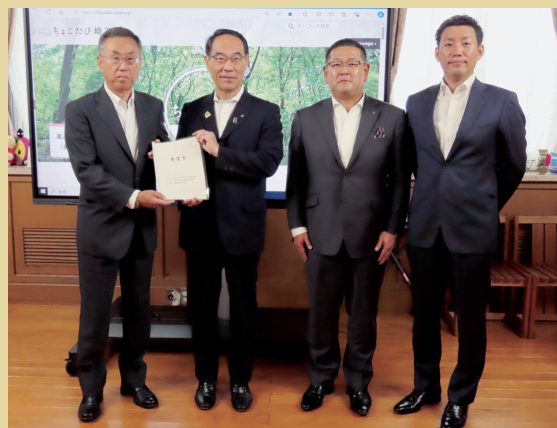
確率や要注意のキーワード、キキクル(危険度分布)の活用方法などを説明されたほか、気象庁ホームページから防災気象情報の入手方法を教えていただきました。

「設備の分離発注を」
大野知事や県幹部に要望書

9月20日、当協会と埼玉県設備設計事務所協会、埼玉県空調衛生設備協会の建築設備3団体は、県庁を訪れ、大野元裕知事に直接発注(分離発注)の要望書を手渡しました。

分離発注を行うことで、設備の設計・工事の品質とコストの透明性確保、メンテナンスのワンストップサービス、企業の経営安定や若手技術者の育成にもつながります。

当日は大野知事の他にも、伊藤高副知事、吉澤隆県土整備部長、伊田恒弘都市整備部長、齊藤邦明県議会議長にも要望を行いました。



大野知事(左から2人目)へ要望書を提出しました

「住みやすいまち」を超えて 「さらなる選ばれるまち」へ



川口市長 **奥ノ木 信夫**

一般社団法人 埼玉県電業協会の皆様におかれましては、日頃から電気工事にかかわる諸問題の調

査研究により電気設備産業の健全な発展に努められ、社会基盤インフラを通して私たちの社会生活の安定と社会福祉の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

川口市は、昭和8年4月1日に川口町、横曽根村、青木村、南平柳村の1町3村の合併により約4万6千人の人口で誕生し、これまで、地場産業である鋳物をはじめとするものづくり産業や、植木・花卉の緑化産業を中心に発展を続け、昨年、市制施行90周年を迎えました。

また、首都東京に隣接しているという立地環境や交通の利便性もあり、現在では、広く「住みやすいまち」として高い評価をいただき、人口は60万人を超え、政令指定都市を除き全国で2番目の規模へと大きな成長を遂げたところであります。

当市では、「住みやすいまち」を実現するために、「川口の元気」を生み出す様々な施策に取り組んでおります。

具体的には、3大プロジェクトとして進めてきた、火葬施設と周辺の豊かな自然を活かした公園を一体的に整備した「赤山歴史自然公園」や、3校あった市立高等学校を再編・統合した「川口市立高等学校」が完了し、旧本庁舎の建て替えも、令和2年竣工の「第一本庁舎」に続き、本庁舎2期棟が令和7年中に完成する予定となっております。

また、待機児童解消のための保育定員の大幅増、こども夜間救急診療所や子ども発達相談セン

ターの整備などの子育て保育環境の充実、小中学校全教室・中学校体育館へのエアコンの設置や中高一貫校の開校などの教育環境の充実、さらには、いつ起こるかかわからない災害に備えた雨水貯留施設や防災公園の整備、区画整理事業などの都市基盤整備の推進のほか、東川口駅前行政センターや東消防署の整備など、多様なまちづくり施策を進めて参りました。

そのほか、貴協会の会員でもある川口市の電気事業者の皆様方にもご出展いただいている「市産品フェア」は、本市の高い技術と伝統を誇る市産品の知名度向上や販路拡大と、地産地消を機軸とした市内経済の好循環により地域経済の活性化を図りたいとの私の思いから始めたもので、本年は、記念すべき10年目を迎え、毎年商談件数も伸び、大きな成果を挙げ続けております。

一方で、昨今の人口減少や東京一極集中が再加速し、都市間競争が激化する中、川口市が「選ばれるまち」を超えて、いつまでも住み続けたい「さらなる選ばれるまち」として成長し続けるために、未来への投資として、川口駅前という好立地を最大限活かした文化・芸術の創造発信拠点として川口総合文化センター・リリアの大規模改修と併せ、隣接地に新たな美術館建設を一体的に進めるとともに、川口がさらなる発展を遂げる原動力として、川口駅への中距離電車停車の実現に向け、JR東日本との協議を前向きに進めて参ります。

今後も、様々なまちづくり施策の一層の充実を図って参りますので、引き続きお力添え賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人埼玉県電業協会の益々のご発展と、会員の皆さまのご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、あいさついたします。

企業対策セミナー



第2回 県と関東地整から講師招く

8月7日、県民健康センターで第2回企業対策セミナーを埼玉県空調衛生設備協会と合同で開催しました。それぞれの協会から25人、計50人を超える参加者が集まり、県や国の働き方改革や入札契約制度について学びました。

第1部では「埼玉県における県内中小企業のDX推進」について、県産業支援課創業支援・DX推進担当の倉林剛敏副課長が人材育成や支援制度、表彰制度を紹介しました。続いて、「入札時積算数量書活用方式の試行と働き方改革・建設現場における新たな週休2日制への取り

組み」を、県土整備部建設管理課建築技術・積算担当の甲田牧子主幹と都市整備部設備課企画担当の高橋浩主幹が、それぞれの内容や変更点を説明されました。第2部は「入札契約制度・円滑施工確保に関する説明」を、関東地方整備局営繕部技術・評価課の中間和洋課長より、営繕工事における働き方改革や円滑な施工確保に向けた主な取り組み等を解説していただきました。



50人を超える参加者が集まりました

第3回 DXと健康経営優良法人テーマに

9月20日、本年度3回目となる企業対策セミナーを、埼玉建産連研修センターで開きました。今回のセミナーでは、DXを活用して売上を伸ばす方法や2024年問題に対応する方法を学びました。

主催者あいさつで積田会長は、講演1部と2部のテーマであるDXについて「経営全般においてDX化を進めていくことが求められている」と重要性を強調しました。

1部は、人的資本経営における中小企業のDX戦略として、コストをかけずにデジタルの力で売上を伸ばす方法。第2部は、2024年問題はDXで解決、労働時間抑制と生産性アップの戦略について、いずれもアカリンク代

表社員の相馬正伸氏から講演いただきました。相馬氏はDXとは「データとデジタルを活用して、継続的にビジネスを変え、競合に勝てる仕組みを作ること。身近なところから継続的に取り組んで」と実行を促しました。

第3部は、健康経営優良法人認定制度について、アクサ生命保険埼玉支社の斉藤俊英さんが説明。健康経営に取り組む企業では離職率が低いなどメリットを示しました。



説明を聞く参加者

本年度業務内容を確認 県住の保守点検実施説明会



7月5日に、本年度の県営住宅消防・電気設備保守点検業務実施説明会を、埼玉建産連研修センターで開きました。当日は、埼玉県住宅供給公社技術部公営住宅技術課等の担当職員出席のもと、参加したおよそ50人の関係企業技術者らは、本年度の保守点検や修繕工事の注意事項、報告書の提出方法等を確認しました。

あいさつで同課の会田卓永課長は「これからも一緒に住宅の管理を行い、入居者が安全安心して暮らせる住宅維持にご協力をお願いします」と呼びかけました。

説明の第1部では、住宅施設概要や保守点検、修繕工事、負担区分について、公営住宅技術課の足立享治主査が行いました。第2部では点検実施、点検結果報告書の作成や提出方法等について、荒川専務理事が説明しました。



およそ50人が参加しました

2社が電気技術を講習 新入社員フォローアップ研修



7月9日と10日の2日間、埼玉建産連研修センターで新入社員フォローアップ研修を開催しました。

同協会人材育成委員会の佐野雄一郎委員長は、有意義な研修となるよう期待するあいさつを行いました。

研修は9日午前にパナソニックが配線器具と照明器具について、午後はネグロス電工がタフロック講習を行った後、貫通部防火措置材の施工体験とネグロス製品の模型組み立て体験を行いました。10日は、仕事の基本を

しっかりと身に着けるため、電話対応や敬語の使い方などを学び、さらにコミュニケーションの重要性を再確認し、受講者に修了証が手渡されました。



ネグロス製品の模型を組み立て体験を行いました

受験準備講習会



1級電気通信工事施工管理技士 一次検定試験対策を指導

1級電気通信工事施工管理技士の第一次検定試験突破を目指して7月30日と31日の2日間、受験準備講習会を埼玉建産連研修センターで開催しました(写真)。講師は電子工学が専門のSEEDOの毛馬内氏が務め、6人が受講しました。

電気通信工事施工管理技士は、2019年度に新設された国家資格で、電気通信工事の現場で活躍するための専門知識と技術を証明する資格です。

初日は電気理論、通信工学、有線・無線の電気通信設備など。2日目は施工計画、品質管理、法令など、いずれも7時限にわたり、実践的な内容を学びました。



目指せ！第一種電気工事士 筆記試験準備講習会で実力アップ

第一種電気工事士の筆記試験受験準備講習会を8月31日、9月6日、13日、20日、27日の5日間に渡り、埼玉建産連研修センターで開催しました。講師は、ケイ・教育企画サポート事務所の茂木次郎氏が務め、参加した23人がカリキュラムに沿った講義を受けたほか、過去に出題された試験問題に取り組み、筆記試験を突破するための指導を受けました。

5日間とも、午前には高圧受電設備や配線図、制御回路、電

気機器、電気工事の施工方法、関係法令などの講義を行い、午後は過去問題を使用した模擬試験を実施し、茂木講師が採点を行った後、個々に内容を解説し指導を行いました。



講習会には23人が出席しました

1級電気工事施工管理技士 二次検定突破を目指す

1級電気工事施工管理技術検定の第二次検定受験準備講習会を9月19日、26日、10月3日、10月10日の4日間に渡り、8人が参加して埼玉建産連研修センターで開きました(写真)。

講師は、ケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏が務めました。小泉氏は「一次試験の合格率は30%台で、二次も大変難しい」と難易度を説明。初日は、検定試験の概要や試験の出題範囲、記述回答書の作成方法、施工経験記述

の作成方法、用語の定義・工程管理問題の解答方法、試験日までの学習方法を説明。4日間とも毎回模擬試験を行い、解答の添削、きめ細かな個人別学習指導も行いました。



特別教育



フルハーネス型安全帯使用作業特別教育

7月25日に、フルハーネス型安全帯使用作業特別教育を、埼玉建産連研修センターで開き、参加した17人は午前中に座学を、午後は実技を受けました(写真)。

講師は、ケイ・教育企画サポート事務所の茂木次郎講師が務めました。最初に茂木講師は、安全帯の名称が墜落制止用器具に変わることを報告。続いて、作業や安全帯に関する知識を学んだあと、実技教育として墜落制止用器具の使用方法を学びました。



足場の組立て等作業主任者技能講習 登録教習機関として開催

8月22日と23日の2日間、令和6年度「足場の組立て等作業主任者」技能講習を、埼玉建産連研修センターで実施し、9人が参加しました(写真)。

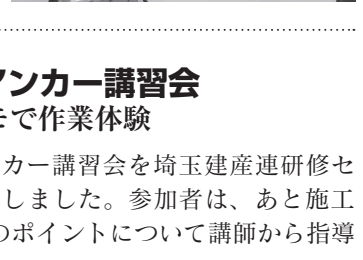
講師は、ケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏が務めました。1日目は、作業方法に関する知識として、足場の組立て、解体等における災害事例から教訓を得るとともに、作業主任者の役割、足場の種類や各種足場の組立てを学びま

した。2日目は、工事用設備、機械器具、作業環境等における知識を中心に習得したほか、作業者に対する教育等の知識、さらに労働安全衛生法などの関係法令を学んだ後、資格取得のため修了試験を受けました。

あと施工アンカー講習会 施工デモで作業体験

8月27日、あと施工アンカー講習会を埼玉建産連研修センターで開き、10人が参加しました。参加者は、あと施工アンカーの使用例や施工上のポイントについて講師から指導を受けました。

講師は、サンコーテクノ(株)が座学、実技の施工デモンストレーションの順に講義を行いました。座学では、アンカーの分類を詳細に説明したほか、品番の見方や施工方法などを解説。実技では参加者が、コンクリートブロックへアンカーの取り付け作業を実際に体験しました。



実際にアンカーを取り付けました

「君が僕の息子について教えてくれたこと」を見て



(株)岡島電気商会 代表取締役 岡島 英和

東田直樹さんとは、自閉症のため落ち着いて行動することや日常会話をすることも難しい中、パソコンを使用して本当の気持ちを表現ができるようになった作家の方です。

私が東田さんを知ったのは、NHKドキュメンタリー「君が僕の息子について教えてくれたこと」を見て知りました。正直驚きました。

13歳の時に東田さんが書いた「自閉症の僕が跳びはねる理由」は、自身の息子さんも自閉症のイギリス人作家デイヴィッド・ミッチェルが翻訳したのをきっかけに世界的ベストセラーになりました。

東田さんがミッチェルへ教えてくれたのは、息子が意思疎通のできない日々をどのように考えているのか

ということです。

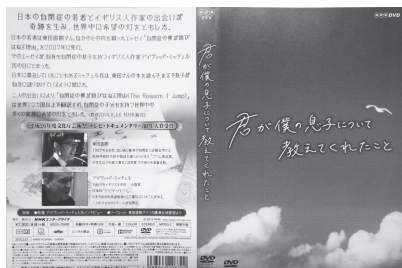
「自身の身体が思い通りにならずまるで不良品のロボットを運転しているようだ」

「みんなの記憶はたぶん線のように続いています。けれども僕の記憶は点の集まりで、その点を拾い集めながら記憶をたどっているのです」一つ一つの記憶が過去と現在関係なく、急に昨日の記憶が今あったことのように感じる。だから急に奇声をあげることもある。と教えてくれました。

会話ができないほど重症の自閉症を抱えている人が高い表現力を持つことは世界でも極めて稀なことのようです。

ミッチェルさんは、「自閉症の症状を誤解している。それは無知差からくるもので自閉症の人に声をかけても理解できないと思わないでください。彼らはしっかり理解していて感情もあり、孤独を分析することや自然に感謝することも人の心を探すことも出来ます」と語っていました。

私は、とても考え深い良い番組を見たと思いました。DVD「君が僕の息子について教えてくれたこと」も販売されていますので、みなさんも見てみてください。



令和6年度役員研修会

当協会では、8月2・3日に新潟県にて役員研修会を行いました。(一社)新潟県電設業協会の近藤前会長にお会いし、業界の現状についてお伺いしました。同氏には、当協会での平成21年度災害復旧対策講習会にて「新潟中越



大震災と(社)新潟電設業協会の対応について」のご講演をいただいた経緯があります。月日の流れの“早さ”と、頻繁な災害の発生への対応について、また働き方改革と人材不足について等問題の多くに共通点を見出せました。



令和6年度 災害対策研修会

建災防全国大会で視察体験学習

当協会事故防止委員会では、昨年より防災意識を高め会員へ情報発信を行うことを目的とした視察体験学習を行っています。本年度は全国建設業労働災害防止大会が東京で開催されるにあたり、10月4日の二日目に参加いたしました。展示や各種講演が東京有楽町



パナソニック汐留ビル 研修室

の国際フォーラムで行われ、委員それぞれ各自が興味のある講演を聴講、また展示コーナーを視察しました。

また、パナソニック(株)エレクトリックワークス社のご協力により、最新の防災機器に関しての説明を受け、ショールームにて実際の機器を体感したことで視聴嗅覚で感じる事ができました。



安全に関する器具の展示会場にて

